

発行所 東京都新宿区左門町11番地6の101  
〒160-0017  
社団法人 大学婦人協会  
電話 03-3358-2882  
FAX 03-3358-2889  
http://www.jauw.org  
E-mail:jauw@jauw.org  
発行人 田中正子  
編集責任者 佐々木 澄子

# J A U W

## おもな記事

- 1面 会長挨拶、第50回通常総会案内、IFUW総会について
- 2面～3面 国内奨学生選考経過と提出論文要旨
- 4面 第6回自然科学講演会、国際奨学生報告会、国内NGO委員会だより、支部だより、新春のつどい、理事会から、ほか

## 第50回通常総会ご案内

厳寒の候、皆さまにはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
さて、第50回通常総会と創立60周年記念事業が、この度福岡市で開催されることになりました。日程等は下記のとおりです。どうぞお誘い合わせの上、多数ご出席くださいますようお願い申し上げます。

### 1. 総会関係 (於：JALリゾートシーホークホテル福岡)

月 日	会 合	時 間	会 場	費 用
4月7日 (土)	臨時理事会	13:00～13:30	リゾートシーホークホテル	会費 8,000円
	評議員会	13:30～15:30	1F 「ナビス」	
	支部長懇談会	15:30～17:00		
4月8日 (日)	懇親会	18:00～20:30	リゾートシーホークホテル	総会費3,000円 昼食代3,000円
	総会	9:00～16:00	1F 「アルゴス」	

\*懇親会には、筑前琵琶 総師範福岡旭会会長 中村旭園氏、寿(祝舞) 梅居孝江(福岡支部会員)の出演を予定しています。

### 2. 宿 泊 JALリゾートシーホークホテル福岡

〒810-8650 福岡市中央区地行浜2-2-3  
TEL:092-844-8111 FAX:092-847-3662  
チェックインタイム 14:00 チェックアウトタイム 11:00

交通 (詳細は申込書などと配布)

- ①地下鉄ご利用の場合：福岡空港から20分、JR博多駅から約15分「唐人町」駅下車徒歩10分、タクシー約3分
- ②車・タクシー利用の場合  
都市高速「百道ランプ」下車2分、「西公園ランプ」下車5分  
福岡空港から約20分、博多駅から約15分

宿泊料金

6日(金) シングル・ツイン 12,000円  
7日(土) シングル 17,000円 ツイン 16,000円  
8日(日) シングル 10,500円 ツイン 9,500円

- \*いずれも1人1泊、朝食・サービス料込みです。
- \*ホテル申し込み、及び支払いは各自で行ってください
- \*JALリゾートシーホークホテル福岡にご予約の場合は必ず大学婦人協会とお伝えください。(ホームページ <http://www.hawkstown.com/>)

### 3. 見学会 (バスツアー)

4月9日(月)  
①、②コースとも、8:30分 シーホークホテル(1Fバス発着所)出発  
15:45分 福岡空港 16:00 博多駅到着

- ①「唐津コース」 参加費：8,500円  
ホテル～名護屋城跡・名護屋博物館～曳山展示場～唐津シーサイドホテル(昼食)～鏡山～空港～博多駅
- ②「柳川・大宰府コース」 参加費：10,000円  
ホテル～柳川川下り～白秋生家～御花(昼食)～大宰府天満宮～空港～博多駅  
※両コースとも、先着順に申し込みをお受けします。コースによって参加費が異なりますが、お振込みの時はご希望のコースの参加費でお振込みください。  
※どのコースも、希望者が25名未満の場合は中止になります。

### 4. 申し込み方法

- (1) 申込書に必要事項をご記入の上、「支部提出用」は各支部へ提出、「個人控え用」は、総会当日に各自ご持参ください。各支部で出席者を取りまとめ「支部出席者取りまとめ用紙」にご記入の上、2月28日(水)までに下記へお送りください。

〒818-0102福岡県太宰府市白川18-24 松村タズ子方  
「第50回(社)大学婦人協会総会」係  
TEL:092-922-5892(松村)  
FAX:092-523-8689(船津)

- (2) 費用は3月10日(土)までに、指定の郵便振替用紙で個人別に、下記口座にお振込みください。

振込先 振替口座番号 01700-0-386  
口座名称 (社)大学婦人協会福岡支部

- (3) 総会、懇親会、見学会のキャンセル受付は3月31日(金)までとします。  
総会費3,000円はキャンセルの日時に関係なく返却できませんので、ご了承ください。  
ご不明の点ございましたら、下記へお問い合わせください。

〒815-0071 福岡市南区平和2-19-27  
TEL 092-531-0154 FAX 092-523-8689  
e-mail [k.funatsu@icom.home.ne.jp](mailto:k.funatsu@icom.home.ne.jp)

第50回通常総会実行委員長 船津 桂江

## 継承と改革を軸に一層の発展を

会長 田中正子

皆様には、お健やかに新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。  
昨年、大学婦人協会(JAUW)は創立60周年を迎えました。1996年に出版された50年史を見ると事業の多くは長い歴史を持ち、先輩諸氏が築いてこられたものであることがわかります。  
今年も若い学徒に贈呈された国内奨学金は早くも創立2年後に、国際奨学金は1970年に発足しました。国内奨学金は、奨学金資金設立とともに、2006年から皆様の貴重な寄付を財源として新たな一歩を踏み出しました。2004年から、国内奨学委員会及び社会福祉委員会による過去の奨学生の現況調査も行われ、女性の高等教育推進にいかに関与してきたかが明らかになりました。しかし、女性の高等教育は推進したとはいえ、学部への進学率は、男性に比してまだ15%も低く、大学院への進学率は男性の約半分です。今後どのような奨学金制度が望ましいか検討する必要がありますが、奨学金事業は、これからも継承させていく大事な事業の一つと考えます。

1981年から2004年まで文部科学省の補助を得て行われてきた全国セミナーも、ぜひ継承していききたいです。この23年間、時代を先取りするテーマで本部委員会と全国の支部が調査研究を行うことにより女性をとりまく様々な課題を明示してきました。今後は隔年に開催される2007年度セミナーのテーマを探るために、昨年は3回シリーズの学習会「教育とジェンダー」と「ジェンダー問題を考えるシンポジウム」を開催し、好評でした。1年目のシンポジウムと2年目の全国セミナーをセットで企画することで、調査研究にじっくり取り組めるのではないかと考えます。支部からの発信と本部委員会の先導的な役割に期待します。

IFUWは、国連で女性の地位や女性の権利に関して大きな発言力を持つNGOです。JAUWは、1954年にIFUWに加盟して以来、2度の総会と太平洋地域セミナーを日本で開催し、高野フミ氏、青木怜子氏が会長に、房野桂氏が女性の地位委員に選出されました。後に続く人材の養成と、IFUWのプログラムをどのような形でJAUWの事業に反映させていくか考えていく必要があります。

JAUW女性の地位委員会が、国連女性の地位委員会の今年の課題に沿って調査した女性に関する報告からは、日本の女性がいかに深刻な状況におか



国内奨学金贈呈式 1月6日(土)、京王プラザホテルで。  
写真＝田中会長から奨学金を贈呈される一般奨学生の松本亜希子さん

れている驚くばかり。しかしジェンダー視点にたつた教育によって解決できる問題もまた少なくないことに気付かされます。  
JAUWは1958年に社団法人の認定を受けて49年になりますが、2008年度から始まる公益法人改革で、公益社団法人認定を目指します。これをバネに、継承と改革を軸に、数少ない教育系の女性NGOとして、一層の発展が期待されます。会員の皆様の更なるご支援をお願いいたします。

## 第29回 IFUW総会出席旅行のご案内

皆様ご承知のとおり、第29回IFUW総会が2007年8月10日(金)～16日(木)の日程でイギリスのマンチェスターにて開催されます。弊社では前回のパスに引き続き、大学婦人協会様より正式に指定旅行代理店としてご依頼をいただきました。つきましては、下記のようなご旅行日程を企画いたしました。過去の経験をもとに会員の皆様ならではの魅力あるご旅行となりますよう、一生懸命努めさせていただきます。  
沢山の皆様方のご参加を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

- 【A】(会議出席コース) 10日間 【マンチェスター】  
旅行代金：230,000円 2007年8月9日(木)～18日(土)
- 【B】(会議出席と緑豊かなアイルランド観光コース) 12日間  
【マンチェスター・ダブリン】  
旅行代金：365,000円 2007年8月9日(木)～20日(月)
- 【C】(会議出席と伝統を誇るスコットランド観光コース) 14日間  
【エディンバラ・湖水地方・マンチェスター】  
旅行代金：440,000円 2007年8月5日(日)～18日(土)

※各コース共にマンチェスターまでのご宿泊代は含まれておりません。  
詳細につきましては、弊社よりご案内いたしますので下記担当者までご連絡下さい。  
上記コース以外にも、日程の合わない方や他にご希望の訪問都市のある方のために自由に日程をお組みいただくオリジナルコース、名古屋・関西・福岡などの地方空港発着も承りますのでお気軽にご相談ください。  
またお一人様のご参加も承ります。

お問い合わせ先

株式会社 JTB 首都圏 東京日本橋支店 TEL: 03-3273-2456  
〒103-0027 東京都中央区日本橋2-2-6 日本橋通り2丁目ビル FAX: 03-3273-2460  
IFUW総会出席旅行係 担当：小野田・小口(こぐち) (平日9:30～17:30、土日祝日はお休みです。)



## IFUW総会 ワークショップ準備発進

副会長 阿部 幸子

第29回IFUW総会ワークショップには、JAUWから二つのグループが参加することになっています。一つは、女性の地位委員会(房野桂委員長)で、今年度で作成した調査報告書「女児に対するあらゆる形態の差別と暴力の撤廃」を中心に、この問題に対してIFUW各国からの参加者を交えた討論を行うものです。房野委員長の間いかけに、報告希望が寄せられています。国内からの参加希望者も募っています。

もう一つは、国際奨学委員会(有志がIFUW総会に向けて行った勉強会(代表・時枝裕子委員)が中心となつて提案する「お茶会ワークショップ」です。日本の伝統文化である茶道を紹介し、盆略手前の茶席に各国の参加者をお招きし、茶事をとおして互いの心をつなぎ、平和について語り合う機会を設けます。皆様の参加を歓迎します。

なお、茶道の経験がなくても大丈夫です。毎月1日曜日に指導者による稽古も用意されています。(問い合わせはJAUW事務局まで)

### 2006年度 JAUW国内奨学生

#### I 一般奨学生 大学院生 6名 (\*はルル・ホームズ奨学生)

氏名	大学院	研究科・専攻	課程・学年	推薦	出身大学
荒川 祥子	東北大学大学院	経済学研究科 経済経営学	博士後期 2回	同大学院	東北大学
高 春梅	駒澤大学大学院	経済学研究科 経済学	修士 2年	同大学院	駒澤大学
*羽谷 沙織	名古屋大学大学院	教育発達科学研究科 教育科学	博士後期 3回	愛知支部	立命館大学
松本 亜希子	お茶の水女子大学大学院	人間文化研究科 人文専攻 歴史文化	博士前期 2回	同大学院	茨城大学
松本 清	奈良女子大学大学院	人間文化研究科 社会生活環境学	博士後期 3回	奈良支部	お茶の水女子大学
柳田 さやか	東京工業大学大学院	理工学研究科 材料工学	博士 1年	同大学院	東京都立大学

#### II 安井医学奨学生 大学院生 1名

氏名	大学院	研究科・専攻	課程・学年	推薦	出身大学
斎藤 杏里	新潟大学大学院	医歯学総合研究科 生体機能調節医学	博士 1年	新潟支部	新潟大学

#### III 社会福祉奨学生 学部生 3名

氏名	大学・大学院	学部・学科	学年	推薦	出身高校
石嶺 舞美	奈良大学	文学部 地理学科	学部 2年	奈良支部	福井県立立川高等学校
笠本 明里	神戸女子大学	文学部 社会福祉学科	学部 3年	神戸支部	兵庫県立高砂高等学校
日野原 輝美	種智院大学	仏教学部 社会福祉学科	学部 2年	京都支部	兵庫県立西宮高等学校

## 二〇〇六年度国内奨学金贈呈式

2007年1月6日(土)、2006年度国内奨学金贈呈式が、京王プラザホテルコンコードの間で行われた。今年の奨学生は前年より1人多い10名(大学院生7名、学部生3名)。贈呈式には9名が出席し、力強い喜びのスピーチが参加者の心を打った。

### 選考と結果

#### 第59回 一般奨学生

#### 第16回 安井医学奨学生

国内奨学委員長  
窪田 憲子

本年度の国内奨学生については、昨年度と同様に、一般奨学生6名、安井医学奨学生1名、社会福祉奨学生3名以下を募集しました。6月初旬に東京都、千葉県、埼玉県、その他地域については、28支部の支部長宛に募集要項を送付し、奨学生候補の推薦を依頼しました。

その結果、一般奨学生38名、安井医学奨学生5名の計43名の応募がありました。昨年の応募を若干名下回っていたことは残念なことでした。10月28日に阿部副会長の出席のもと、選考委員会が開かれました。選考委員は応募者の書類を検討し、各自の評価表を作成して委員会に提出しました。研究内容を中心に審議し、専門分野、地域、学年(博士課程前期・後期の別)も考慮しながら慎重に検討を重ね、一般奨学生6名、安井医学奨学生1名の候補者を選び、さらに一般奨学生の中からホームズ奨学生候補者を1名選出しました。候補者は11月4日の理事会の承認を受けて2006年度奨学生として決定し、応募学生、推薦大学、各支部に結果の報告をいたしました。

今年度の傾向としては、昨年ほどではないにしても、文学関係が少なかったこと。社会科学を含めた文系と理系の比率は大体3対2の割合で、理系の中では、生命科学から4名の応募があったことが注目されました。

おしなべて論文の水準が高く、6倍を超す競争率の応募者から選考することは困難を極めました。選にもれた方の中にも多くの秀れた人材が見受けられ、今年度も本奨学生にふさわしい優秀な方々が選ばれたと自負しております。

荒川祥子さんは、企業経営にとつて障害者の就労がどうあるべきなのか、経営管理、雇用管理などの面から、日本における障害者雇用の現状を分析し、課題の解決における方向性を提示しようとして試みています。

高春梅さんは、中国内蒙古で勉学を終えたのち、日本の大学に入り、大学院に進みました。中国農民の反乱に深く関心をもち、農村経済の自立に国家財政の支援が不可欠であることを検証しています。

松本亜希子さんは、19世紀初頭にみられた「入百姓」という社会現象を、実際の古文書を解説することから分析し、労働力としての家族のあり方、農村と幕府機構との関連、当

#### 第35回 社会福祉奨学生

社会福祉委員長  
林 千代

1971年から始まった歴史ある社会福祉奨学生に、2006年度は7名の応募がありました。大学院生2名、学部生5名です。しかし、院生2名は大学院在籍が1年未満、学部生1名は障害者手帳の写しの添付がなかったため、3名の方は選考外となりました。

社会福祉奨学生の応募資格を一般・安井医学奨学生同様、「大学・大学院に1年以上在籍する女子学生」と明確化したのは、昨年の総会ですが、周知不足ではなかったかと反省しています。結果として学部生4名が選考対象、院生の分を振り替えて3名に差し上げたことにしました。

田中会長出席のもと例年どおり全委員が一覧表に評価と順位を記し、それをもとに全体の順位を決め再評価、調整を厳正かつ慎重に行いました。学業成績、人物評価、諸活動など総合的に話し合い、11月の理事会に推薦、決定しました。

石嶺舞美さんは、筋力が弱く歩行困難、電動車椅子使用。幼い頃から

時の宗教などについて考察を進めています。

松本清さんは、競争時にかかるストレスの認知についての研究で、競争ストレスの定量化を試み、心の問題を身体の面から働きかける療法の一つとして、教育現場に適用することを試んでいます。

柳田さやかさんは、無機ナノシートとヘテロポリ酸の複合化による新規光触媒材料の作成と評価について研究をしています。光触媒による環境浄化を目指す研究です。

羽谷沙織さん(ホームズ奨学生)は、カンボジアにおける女性の舞踊家に着目し、女性の舞踊家がカンボジア文化の再創造の担い手ではないか、という点の検証を試み、あるべきカンボジア的教育の形態を探っています。

斎藤杏里さん(安井医学奨学生)は、骨髄腫等造血器腫瘍の治療に関連した研究で、放射線療法や化学療法など副作用の強い療法ではなく、負担の少ない免疫療法で、造血器腫瘍の治療にあたらうと試みています。

以上のように、将来性豊かな方々に奨学金を贈り、研究の一助としていただけることは、協会にとってもまことに嬉しい限りです。

地図を見ていて、地理学専攻へと進み、県外に出たのは、精神的自立を求めてのこと。卒業後は旅行会社で、高齢者、障害者向けの企画立案を希望しています。学業成績に秀で、明るい性格、社会的矛盾に鋭く目を向ける感性ありと評価されています。

笠本明里さんは、視覚障害者です。水泳が特技。いろいろな大会で金メダルを得、大会新記録を次々に樹立し、神戸市スポーツ優秀選手賞を受賞。また、日本身体障害者国際大会強化指定選手でもあります。障害者への理解を、健常者との架け橋を、との願いに「ねばり強く挑戦する姿勢がある」と推薦されました。

日野原輝美さんは、脳性麻痺による機能障害です。高卒後3回の就業、結婚、夫の死そして大学へ。40歳を過ぎていました。自分の障害を克服できなかったのに、心を病んだ人の作業所での体験から自己肯定へ。温厚で礼儀正しく、勉学への熱意大と推薦の言葉です。社会福祉士の資格を取り、小規模作業所で働く予定です。

奈良支部、神戸支部、京都支部からのご推薦、ご協力に心より感謝し、お礼申し上げます。

## 提出論文概要と将来の希望

### 【一般奨学生】

#### 社会的課題の解決に向けた企業経営

#### 障害者の就労問題を事例として

東北大学大学院  
荒川 祥子

これまで、障害者の就労については福祉領域を中心に議論されてきたが、雇用就労の現場となる企業が実際に組織としてどのように取り組むべきかについては、十分に議論されてこなかった。このような状況において、私は、学士・修士論文と一貫して障害者の就労問題を取り上げ、企業と障害者就労問題における経営管理・雇用管理の協働を促進するための要因や協働類型を見出し、特に焦点をあてて研究してきた。

修士論文においては、日本の障害者雇用の現状や課題、課題解決のための方向性を提示し、組織への貢献者としての立場や主体性を強調し、障害者を「人材」として活用すること、障害者を雇用することによる直接的な経済的生産効果のみならず間接的な経済的生産効果

果(社会経済的生産効果)をも、就労する障害者による貢献の内容として考慮すべきであることを提案した。

博士論文においては、企業と社会的課題との関係を、障害者の就労問題を事例として取りあげ考察する。諸組織のマネジメントを比較分析し特性を明らかにすることにより、組織間の協力関係の構築や、企業と他組織との協働を促進するための要因や協働類型を見出し、社会的課題解決を目的とした経営の新たな方向性を提示することを目的とする。経営学や職業リハビリテーション論を分析し組み合わせ、それらと訪問調査の比較分析の結果を博士論文として纏めあげ、将来の研究につなげていきたい。

#### 中国改革開放以降得た富は

#### どこまで公平に配分できたか

#### 中国農民反乱の深層追及

駒澤大学大学院  
高 春梅

中国は「世界の工場」としてだけでなく、13億人の市場としても注目されつつある。しかし、消費者になるはずの大半の農民が、一人当たりの所得が都市部の三分の一に留まり、社会福祉等の面で現地社会から疎外されている移民による暴動が起

起している。中国では、都市部で働いている農民が外国人労働者以下の待遇しか受けていないことを考えれば、同じような事態が起ころうと何の不思議もない。私は近年中国各地で起きた農民反乱に焦点を当てて論じていきたい。本論の内容：第1章 先行研究、第2章 中国農村改革、第3章 中国農村各地の農民反乱の深層、第4章 WTOの加盟、中国農業に更なる試験、第5章 政策転換は何故必要なのか、第6章 ピンチをチャンスに変える時、論文の結論：内陸農村の貧困問題は歴史的構造的な問題であり、政府は内陸農村の貧困問題を本気で解決しようとするのであれば、経済成長率を下げても内陸農村に投資をしなければならぬ。国が内陸農村に重点的に投資しない限り、内陸農村の発展は限られる。頑張りば報われる日必ず来ると、子供たちに伝えることができれば、私にとっても有意義な人生だと思ふ。

起ころうとしている。中国では、都市部で働いている農民を促すべきだとしても、国家財政による莫大な支援は不可欠であり、それなくして内陸農業に展望を見いだすことはできない。将来の展望：修士課程を卒業したら博士課程に進学するつもりでいる。そして、博士号を得て、中国に帰って教育事業に力を尽くしたいと思っている。私は中国の貧しい農村出身で、私たちの学費を捻出するために両親が晴れの日も雨の日も関係なく、一生懸命働いていた。あの時から農民の社会的地位の低下、農作業の辛さ、農村生活の貧しさは骨にまで刻み込まれるほど感じ取っていた。しかし、今日うとするのであれば、経済成長率を下げても内陸農村に投資をしなければならぬ。逆境を乗り越えれば、きつと明るい未来が待っている。頑張りば報われる日必ず来ると、子供たちに伝えることができれば、私にとっても有意義な人生だと思ふ。

開発コンテンツにおけるカンボジア古典舞踊の教育

—文化の再創造を担う女性舞踊家—

名古屋大学大学院  
羽谷 沙織

カンボジアは内戦、その後の政情不安から、学校教育の整備が立ち遅れている。修士論文では、教育開発と国際援助に着目した。しかし、現地調査でカンボジアの人々と言葉や文化を交わすなかで、その土地の文化的基底に位置付けられた、よりローカルな教育活動に関心を持つようになった。私は、現在、アンコール王朝時代から続くクメール古典舞踊に注目し、この舞踊教育は、これま

その舞踊教育を研究の対象に据えている。古典舞踊は、踊り手が女性に限られており、舞踊家は女性の職業として認知されつつある。また、2003年11月にユネスコ無形文化遺産に登録された。その継承が重要視されている。そのため、舞踊教育を通して女性舞踊家が何を継承しようとしているのかを考察することは極めて重要と思われる。この舞踊教育は、これま

で、必ずしも援助の対象という授業を通して、カンボジアの道徳や礼儀、社会文化規範の再生、社会的弱者といわれるカンボジアの女性が、主体的に自己の力の獲得(エンパワーメント)を図ろうとする教育的営為といえよう。

2年間半のカンボジア留学を通して、舞踊教育が、教師の手法を模倣するという外面的な所作の習得にとどまらず、「職業道徳」や「実践理論」を察したい。

### 百姓移住の研究と生涯学習への貢献

お茶の水女子大学大学院  
松本 亜希子

日本近世史を主専攻としている私は、研究課題として、19世紀初頭に北陸地方から北関東地方へ移住した「入百姓」を取り上げる。入百姓とは、主に18世紀半ば以降北関東・東北地方で起こった人口減少・荒地増加の問題を解消するため、幕府代官・藩の主導によって集団移住した百姓を指す。当研究は1960年代から70年代、村落に対する一政策という観点から盛んに行われていたが、90年代以降、目立った研究報告はされていない。特に、入百姓の出身地・移住先の双方において、村人自身にとって入百姓がどのような存在であったのかという点は未だ十分な分析がされていない。

### 教育現場に適用可能なバイオフィードバック方略ならびにシステムの開発を目指して

奈良女子大学大学院  
松本 清

博士論文として取り組んでいるのは、競争ストレスに関する精神生理学

面における精神活動を客観的に捉えるため、脳波・事象関連電位を用いた競争ストレスの定量化を試みています。これらに基づいて、競争時の内的状態や外的な刺激に対する認知処理の特徴を明らかにしようとしています。

これまでの研究成果は、日本バイオフィードバック学会等で発表し、「バイオフィードバック研究」等に論文として掲載されています。バイオフィードバックとは、脳波等の生体情報を視覚覚信号に変換し、それを本人が認識することによってセルフコントロールの達成を目的とするもので、心の問題を身体面から働きかける技法の一つです。これは、今日の心理臨床

環境浄化への光触媒の利用  
テロポリ酸を用いた光触媒の調整と評価

私は博士課程では「無機ナノシートとテロポリ酸の複合化による新規光触媒材料の作成と評価」というテーマで研究に取り組んでいます。これまで分解が困難であった有機フッ素化合物を効率よく分解し、無害化するような光触媒の作製を目指しています。

有機フッ素化合物は熱や化学物質に強い機能性コーティング材として、近年さかんに利用されています。その製造過程で排出される化合物は甲状態に異常を引き起こすことが分かっています。早急な対応が求められています。私の研究では、有機フッ素化合物に対して分解能を有するヘリ

テロポリ酸を無機物のナノシート上に固定化し、高性能光触媒材料として用いることを検討しています。固定化により分解反応後の分離操作が容易となるほか、揮発性のフッ素系有機物の分解にも適用できると考えています。光触媒による環境浄化は近年さかんに研究されていますが、同時にその限界・問題点も分かってきました。私は従来とは異なるアプローチから光触媒材料の新しい可能性を示せるよう研究をすすめています。院生やポストドクターとして経験を積んだ後は第一線で働く研究者になって、オリジナリティある研究で

環境問題やエネルギー問題の解決に貢献していきたいと思っています。



新春のつどいのあと、2006年度国内奨学生を囲んで記念撮影

### 【安井医学奨学生】新しい腫瘍免疫療法の研究について

新潟大学大学院  
斎藤 杏里

私は血液腫瘍検査学研究室において骨髄腫等造血器腫瘍の治療に関連した研究の一環として、T細胞療法について主に研究しています。現在腫瘍の治療としては放射線療法や化学療法が主に知られていますが、いずれも強い副作用と患者への負担が問題となっており、近年新たに、免疫療法というものが腫瘍の治療の一つとして確立され、自己の免疫能力を用いて治療をするため、副作用がなく、患者への負担を軽減できる治療法として注目されています。その免疫療法のうちの細胞免疫療法に含まれる

を進めており、また、T細胞の抗腫瘍活性の増強や免疫抑制剤の使用している場合において、T細胞を効果的に増やすことが可能かどうかについても検討を始めています。今後の展望

### 【社会福祉奨学生】将来に向けて

奈良大学  
石嶺 舞美

子どものころから「地理」の分野に関心を持っていて私は、自分自身の精神的な成長をするためにも地元を離れ、奈良大学の地理学科へ進学しました。地理学の中でも特に観光地理学に興味を持ち、正規の講義以外に「総合旅行業務取扱管理者試験」の受験勉強をし、その結果合格することができました。卒業後は、旅行会社でツアーの企画業務に就くことを強く希望しています。

近年、交通機関や観光施設などのハード面のバリアフリー化が進んでいますが、ソフト面は遅れています。車椅子利用を前提とした、障害のある人々が楽しむことのできる旅行を企画することや、今後必要となると感じています。そのニーズを

私は今、社会福祉を学んでいます。大学卒業後はあえて福祉関係の仕事にはつかないでおこうと思っています。それは、私は「パラリンピック」でメダリストになるという夢があり、

### 社会の中で障害当事者が出来る支援とは何か

種知院大学  
日野 原輝美

今年の4月から、本格的には10月から施行される、障害者自立支援法のもとで施設・各種サービスを利用することで、利用料を支払わなければならないという状況になった。国家の財政難が、弱者と言われてきた高齢者や障害者にも負担が課せられるようになった。社会の一員だから負担を課せられることも、仕方のないことかも知れないと思うようになった。なぜなら、守られて当然という気持ちから自身の中になかったか、積極的な社会参加を試みてきたのだろうか？と問いてみる

障害当事者と支援者の両方の立場で現状が見られることを利点とし、身辺自立、家族との関わり、社会との関わりを経験してきたこと、大学で障害当事者達や支援に携わった人達に「この自分が自分で良かった」と思えるような関わりが出来たらいいと思っています。

〈支部だより〉

「フアイト、フアイト」

大阪支部長 北嶋 貴美子



佐川美術館にて 2006・10・25

2008年4月、全国総会が大阪で開催されるに、前回お世話をしたこととなっております。

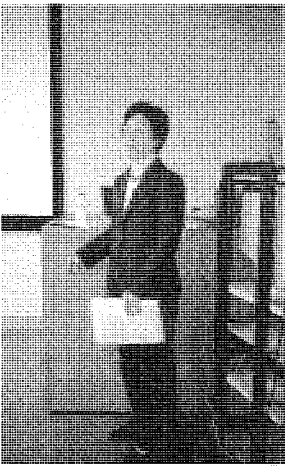
お年を召された。そこ。で今。回は。J.A.U.W.では。若い。50代、60代の。会員が。中心とな。り。体力面。を引き受。け、先輩。方には接。待と役割。分担を。決めてお。ります。会場は、

第6回自然科学講演会報告

生命科学教育における新しい教育法のこころみ

2006.12.9(土) お茶の水女子大学にて

聖マリアンナ医科大学 医学部助教授 熊谷晶子氏による講演「生命科学教育における新しい教育法のこころみ」は12月9日2時より30名以上の出席者を集めて、お茶の水女子大学理学部の会議室で行われた。



教育法について語る 熊谷晶子委員

熊谷晶子氏は、熊谷晶子氏による講演「生命科学教育における新しい教育法のこころみ」は12月9日2時より30名以上の出席者を集めて、お茶の水女子大学理学部の会議室で行われた。熊谷氏は医学系2年次生の生化学の講義において、お茶の水女子大学において、お茶の水女子大学理学部の会議室で行われた。熊谷氏は医学系2年次生の生化学の講義において、お茶の水女子大学において、お茶の水女子大学理学部の会議室で行われた。

△国際奨学生報告会▽

シユワニツツさん(ドイツ)

国際奨学委員長 平野 和子



今年度国際奨学生の「転の役割」と題して、カアレリア・ヤーナ・シユワニツツさんの研究報告。欧州連合からのODAを比較してのお話だった。まず用語の説明で、「持続的開発」の定義が、ブルントラント氏が書いた「ブルントラント報告書」の「将来世代が自身のニーズに

国内NGO委員会だより

国内NGO委員長 岡部 道子



国内NGO委員会メンバー・事務所にて

私たちが委員会の活動を紹介します。毎月、理事会の次の火曜日午前中に定例会議を持ちます。松鹿委員を中心に苦

＜理事会から＞ ●(社)大学婦人協会の推薦により、丸山庸子さんが「平成18年度文部科学省社会教育功労者」として表彰されました(2006年12月6日)。

「新春のつどい」

1月6日(土)、「新春のつどい」が、京王プラザホテルで開催された。会長挨拶では、わが国の男女平等、女性の進出はまだまだであると話された。

社会福祉奨学生に、賞状と奨学金が贈呈された。スピーチは、環境問題や医療などこれからの研究の成果が待たれるものばかりであった。

楽天 RAKUTEN ICHIBA www.rakuten.co.jp